

普及活動情勢報告（令和6年9月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

一般農家へ優良種子を供給するために！～水稻採種ほ審査～



広いほ場は中に入って
審査をします

9月3日と4日に、普及所は県職員とJA高知県れいほく営農販売課、農畜産部米穀課の協力のもと、計21人で田井採種組合11戸、相川採種組合10戸のほ場審査を実施しました。当日は、異品種の混入や病害虫及び雑草の発生状況について審査し、ほ場の状況および当該ほ場が採種ほ場として適切であるか、可否を生産者に報告しました。

生産者からは「今年は高温が続いて不稔が多かったし、昨年より生育が1週間ほど早い。刈り取りに向けて早めに準備をせんといかん。」と話がありました。

普及所は今後も関係機関とともに、防除や適期刈取等の呼びかけを行いながら、優良種子の生産に向けて支援していきます。

無農薬ユズの有機栽培化に向けて

～令和6年度 第1回嶺北地域果樹（ユズ）産地協議会～



産地協議会の様子

9月20日、JA高知県おおとよ支所で第1回嶺北地域果樹（ユズ）産地協議会が開催され、生産者や役場、JA、普及所から計16人が出席しました。

普及所は無農薬ユズの有機栽培化に向けた取組として管内ユズ生産者の施肥の実施状況を報告し、併せて取組を進めていくための今後のスケジュール案を提示しました。

生産者からは「積極的に有機の取組を進めていくべきだ」という意見が出され、部会規約改正や取組に係る事業申請なども視野に入れながら具体的な推進計画を検討していくことで出席者の合意が得られました。

今後も普及所は生産者や関係機関と連携して、有機栽培に準じたユズ生産に向けて取組を推進していきます。

地域の「これまで」と「これから」を話し合いました

～大豊町地域計画策定に向けた取組支援～



地域の課題を
皆で共有しました

大豊町では町内を9地区に分けて地域計画策定に向けた取組を進めています。8月から9月にかけて、第2回目となる座談会が9地区10カ所で開催され、区長や中山間直払代表者、認定農業者、農業委員、町・普及所職員等が参加しました。

普及所は会の進め方や方向性を町と事前に調整し、当日は進行のサポートを行いました。

参加者からは、鳥獣被害の増加や担い手不足、人口減少による地域行事の衰退・空き家の増加など様々な課題が出されました。

今後は年内に第3回目の座談会を開催し、課題解決に向けた取組内容を話し合い、各地区の農業の将来像をまとめていきます。普及所は引き続き地域計画策定に向けた取組を支援していきます。